

2019年度 研究センター事業報告書

研究センター名	東アジア平和協力研究センター
---------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいだけわかりやすく記述してください。

本センターでは、2019年度(本センター立ち上げの前段階である企画も含める)に以下のような業績を上げた。2019年度はセンターのメイン行事として大型シンポジウムを3回行い発信力とネットワークを高め、比較的小規模の学術セミナーおよびワークショップによって、具体的なテーマを濃密に議論するという2本柱で進めた。

<シンポジウム>3回**①東アジア安全保障環境の変化と朝鮮半島の未来**

日時:2019年5月30日 場所:立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム

②北朝鮮の核兵器高度化と北東アジアへの影響

日時:2019年12月12日 場所:立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム

③北朝鮮非核化交渉と日米韓の未来

日時:2019年12月14日 場所:早稲田大学16号館411号室

シンポジウムでは、日本・韓国・米国・中国の専門家を招請し、東アジアひいては世界の懸案問題となっている「朝鮮半島非核化」を扱い、知見を提示した。また、各国の第一線で活躍している研究者のネットワーク化をはかった。

<学術セミナーおよびワークショップ>5回**①日韓関係の「法化」—二つの「正義」の狭間で**

日時:2019年7月30日(火曜日) 18:00～ /場所:立命館大学衣笠キャンパス恒心館208

発表者:浅羽祐樹(同志社大学グローバル地域文化学部教授) / 討論者:文京洙(立命館大学特任教授)、曹喜庸(Cho Hee-yong・韓国国立外交院日本研究センター前所長) / 司会(兼討論):中戸祐夫(立命館大学国際関係学部教授)

共催:衣笠総合研究機構、コリア研究センター、国際関係学部

②東北アジアの安全保障環境と日韓関係

日時:2019年9月27日(金) 14:00 開場・受付 場所:立命館大学衣笠キャンパス恒心館304教室

③5.18 光州民衆抗争と平和の現代的意義

日時:2019年11月2日 場所:立命館大学

④Japson Lee氏を迎えての学術セミナー

日時:2019年11月11日 場所:アメリカン大学

⑤ 最近の情勢と立命館大学東アジア平和協力研究センターの課題

日時:2019年12月23日 場所:立命館大学学而館201号 ※登壇者2名がやむを得ない事情のため急遽帰国することになり、規模を縮小して実施した。

⑥最近の北朝鮮情勢(アレクサンダー・ヴォロンツォフ教授)

日時:2020年1月22日 場所:立命館大学恒心館KS204

⑦Security Cooperation between Korea and Europe. Something other than the NK nuclear issue? (Hae Won Jun 教授)

日時:2020年2月19日(水) 13:00～15:00 場所:立命館大学 学而館 研究会室3

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	中戸 祐夫	国際関係学部	教授
運営委員	崔 鎮旭	衣笠総合研究機構	客員研究教員(教授)
	森 類臣	衣笠総合研究機構	客員研究教員(准教授)
	関 智焄	衣笠総合研究機構	客員研究教員(助教)
学内教員 (専任教員、研究系教員等)			
学内の若手研究者	専門研究員・研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員(PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)			
客員協力研究員	田惠媛(Hae-Won JUN)	Institute of Foreign Affairs and National Security, Korea National Diplomatic Academy	Associate Professor
	Kyunghwa Lee	Soongsil University	Visiting Research Fellow
	曹 喜庸	韓国国立外交院	兼任教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員	計 7 名	(うち学内の若手研究者 計 0 名)	

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2020年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	森類臣	韓国ジャーナリズムと言論民主化運動：『ハンギョレ新聞』をめぐる歴史社会学	単著	2019年8月	日本経済評論社		全352p
2	森類臣	ソウルを歩く 韓国文化研究はじめの一步	共著	2019年9月	関西学院大学出版会	平田由紀江, 山中千恵, 森類臣, 李泰東, 金志允, 金兌恩, 申鉉準, 羅一	pp.67-65
3	関智焄	韓国政府の在日コリアン政策[1945-1960] 包摂と排除のはざま	単著	2019年4月	図書出版クレイン		全240p

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1								

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	中戸祐夫	米朝首脳会談共同声明からみる北朝鮮の核戦略	2019年4月	グローバルガバナンス学会	
2	中戸祐夫	米朝首脳会談の米国の論理	2019年4月	北東アジア学会関西支部研究会	
3	中戸祐夫	Security Cooperation between Japan and the ROK: Strategic Priorities and Historical Issues	2019年9月	British East Asian Studies Association	
4	中戸祐夫	日韓安保協力の進展と停滞－戦略的優先と歴史要因	2019年11月	東アジア日本研究者協議会	
5	崔 鎮旭	韓国の視点から見た韓米関係	2019年5月	立命館東アジア平和協力研究着手記念国際シンポジウム	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	立命館東アジア平和協力研究着手記念国際シンポジウム・東アジア安保環境の変化と朝鮮半島の未来・	衣笠キャンパス	2019年5月	100名	
2	学術セミナー 東北アジアの安全保障環境と日韓関係	衣笠キャンパス	2019年9月		
3	北朝鮮非核化交渉と日米韓の未来	早稲田大学	2019年12月		早稲田大学地域・地域間研究機構
4	クローズドセミナー 「最近の情勢と立命館大学東アジア平和協力研究センターの課題」	衣笠キャンパス	2019年12月		
5	“Security Cooperation between Korea and Europe. Something other than the NK nuclear issue?”	衣笠キャンパス	2020年2月		

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間

